

総選挙画期的躍進！ 8⇒21議席へ

民報

あばしり

NO. 1000

2014. 12. 21

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二四四五八
F 四三二四四五七

日本共産党は今回の総選挙で比例の得票数を全国で606万票に伸ばし、大きな躍進をとげました。
網走市においても左記のような躍進をとげました。

比例選挙

2131票 (12.42%) 前回+807票

北海道からはたやま和也さんが14年ぶりの議席獲得

小選挙区選挙 菅原まことさん

2284票 (13.37%) 前回+786票

当選はなりませんでしたが12区で前回より7千票以上増やし、過去最高の票数

市委員会への電話

今回の選挙結果は「安倍政権の暴走」に対し多くの国民が「この道は危ない」と感じている中で、この暴走と正面から対決できるのは日本共産党しかないという期待のあらわれであると考えています。
そして網走市においてもそれがはつきりとあらわれた数々のできごとがありました。

このままでは、日本の未来が心配だ。共産党が伸びないと変わらない。できることはなんでもする。何か手伝えることは無いか。

実際に事務所にきてくれて、ビラ折り、証紙貼りなど、何日も手伝ってくれました。

2人の閣僚がやめたけど、相も変わらぬお金の問題には腹が立つ。大臣を辞めればいいというものではない。本当は議員も辞めるべきだ。清潔な共産党の議席が増えないとだめだ。ガンバレ！

共産党を応援するという電話に「共産党への支持を広げてほしい」とお願いすると「よし、わかった。知り合いに話してみる」

これらはごく一部の例ですがこれまで共産党に投票してこなかった有権者にも「今回は共産党」という変化が起きていました。

農業者のみなさんの中に

「TTPPを進めたのは民主党」。「前回選挙では自民党が「断固反対」と言っていたのに裏切った、という怒りが大きく広がっていました。

今回の選挙での日本共産党の躍進は、こうした有権者のみなさんの思いに支えられたものだ、私たちは肝に銘じておりました。

そして、勝利のために日夜を分かつた奮闘していただいた後援会、支持者のみなさんに心から感謝申し上げます。

来年の4月には網走市議会選挙も行われます。

今回の総選挙以上に皆様方のご支援をお願い致します。

菊地ひろし
まっしぐら。

網走
に戻って
きて

2年2ヶ月が経ちますが、まさか3回も国政選挙を戦うことになるとは思っていませんでした。

2012年12月に行われた総選挙では、国民を裏切った民主党に対して怒りがあふれてきました。Aさんは「俺は共産党は嫌いだ、反対ばかりして」と言っていました。結果は共産党の1議席の後退と自民党政権の復活と第3極といわれた維新の会やみんなの党の議席増でした。

しかし半年もしないうちに、彼らの役割が自民党の補完勢力だということが日増しに明らかになりました。そして昨年の参議院選挙は、「安倍自公政権の暴走を止めてほしい」の国民の願い、市民のみなさんの思いが「ブレない共産党」に向けられていました。Aさんは「消費税には頭にきた、今度は考えてみる」と、この時は話していました。私の父は、日本共産党に投票しようとした期日前投票の前日に力尽きてしまいました。

今回の総選挙は超短期決戦、必死でした。私の父のように戦場で奇跡的に助かり、戦後の日本復興のため、家族のため必死に働いてきた年配者から「早く死ぬということか」この言葉を何度も聞かされました。

こんな政治を続けていいのか、そんな思いを街頭で訴えてきました。「もう我慢できない、アベノミクスはなんだ」「今度共産党に入れる」「自民党だが今度共産党だ」など変化を感じる声が幾人からも聞かれました。
Aさんは「うちのカミさんは共産党だと言っていたぞ、俺も考えるさ」。Aさんにお会いするのが楽しみです。

民報 あばしり 1000号に到達!

第1号は1982年1月10日

日本共産党網走市委員会の歴史でもある「民報あばしり」が今号で1000号という記念すべき発行号に到達しました。(それ以前にも発行していたのですが、通算の番号でなかったために、カウントしていません。)

折りも折、総選挙で画期的躍進と重なり、大変嬉しく思っています。

毎週、赤旗に折り込まれて届けられる「民報あばしり」は、網走市政や市民の声を取り上げており、読者のみなさんに愛読されてまいりました。

また、議員をはじめとするコラム欄も興味深く、読まれております。

今後はより身近な紙面にするため、市政の問題点を明らかにしたり、市民の喜びや要求を取り上げ、充実した内容にしていきたいと考えております。

引き続き、ご愛読をお願い致します。

いっせいで東奔西走 敏勝

民報あばしり1000号おめでとうござい
ます! 私は1999年に議員に当選したばかりで、当時、民報は毎週発行でなかったのを週刊にしたばかりでした。

そこで活動コラムのタイトル名を何にするかとなり、議員として住民や地域の要求を東に西に忙しく走り回る事と自分もランナーとして走ることから、「東奔西走」に決定した事が思い出されます。松浦議員は「奮戦記」で捲土重来を期する覚悟で命名し、カンバックして奮戦しています。大先輩の鈴木英子さんは「そよ風」と命名、さわやかな風を吹かしていたことが思い出されます!。民報は日曜版と日刊紙に入れますが、読者の方には本体より民報を見る方もいたり、市役所の読者は民報の議員団コラムを真っ先に読まれる方が多いと聞きます。

東奔西走の切れ味は、走れなくなった影響なのか、包丁が悪いのか、切り方が悪いのか、なかなか納得のいく内容になつてくれません。そう思つて16年目に入り、そろそろお別れの時が近づきつつあります。残された期間を走れない本体と切れないセンスで頑張つて行きたいと思つています。後、4ヶ月よろしくお願いいたします。

松浦奮戦メモ

1982年1月10日号から今の「民報あばしり」がはじまりました。当時は、全部手書きで印刷も手動の印刷機でしたから、写真入りは、印刷にコツがいりました。不

定期ではありましたが、多くの方の協力をいただきながら発行してまいりました。同年11月の市長選挙では、党公認で米谷道保さんを立てて戦い善戦しました。1983年のいっせいで地方選挙では、私が道議選に立候補して市党史上最高の4332票の得票を得ました。そして、2週間後の市議選では、12年ぶりに大江道男さんと鈴木英子さんの複数議席を獲得しました。1995年には私も市議選に立候補して、大江議員701票23位、鈴木議員669票25位、松浦697票24位と3人並んで当選して驚かれました。

しかし、1999年の市議選では、2期目の私が落選してしまいました。その教訓の一つとして、民報あばしりの発行の改善と定期発行することを決め、民報あばしり編集委員会をつくりました。そして、1000号という節目を、総選挙で大躍進した翌週に迎えることを心から嬉しく思います。今後とも、しんぶん赤旗の読者のみなさんや市民のみなさんに親しまれる紙面づくりに努力致しますので、宜しくお願い致します。

流水

高齢化時代、70歳を過ぎると誰もが超高齢者。私も最近、学生時代の友から加齢黄斑変性症による失明との知らせを受け、愕然として

います。▼にわか勉強ですが、欧米では糖尿病網膜病。加齢性黄斑変性症は失明原因の第1位であり、更に生活習慣病と位置付けられている事を知りました。▼日本でも最近この研究が進み、山口康三医師らによると食生活の変化に伴い、目その物の医療的治療だけでなく、①食事の見直し②水分摂取量調節③カフェイン含有量による脱水に注意④冷えに注意⑤タバコ、アルコールに注意⑥軽い運動の励行などを行う事がその予防、改善への一番の近道であるとしています。▼目からの情報は私達の生活の8割以上に及ぶと言います。こんな目を守るため努力する事は当然として、今進められている医療費の切り捨てを止めさせましょう。イギリスでは外国人を含めて医療費は無料、ドイツでは学生の授業料は無料で、その学生が就職した後、その企業から大学税として取る。これも又外国人でも▼アベノミクスの無駄なバラマキ行政をやめさせて、国の未来をなう子ども達の教育に、福祉を守るためにこそ税は使わせるべきです(K)